

自分のやりたいって思ったことは自分から積極的にやることかな

語り手 谷口 紗彩（高校十四期生 スポーツ健康科学部）

聞き手 佐々木 菜那

部活の話

―立守を選んだきっかけは？

立守を選んだきっかけは、中三のちょうど受験シーズン時ぐらいに、急になんか足が悪くなって。勉強しすぎて、超ストレスやったから。その時に、立守か立宇治推薦どっちかやったら取れるよってなって、その二個選んだ時に、結局、最終的には制服が可愛い立守にした。この制服着たいって思ってた。それとすごい自然に溢れたキャンパスの雰囲気めっちゃ好きだった。

―推薦入試ってことですか？バスケをずっとやってた？

元々バレーやってて。

―何でバスケに入ったんですか？

バスケの先輩が結構活気ある感じで、この雰囲気いいな、みたいなん思ってた。そのままバスケに入った（笑）。初心者で、触ったことなかった。

―初めて部活の体験に行った時の印象は楽しいが強かったですか？

最初行った時は鬼ごっこしかしてなかったから、楽しいかもって思ってた。最初楽しいしかなかった。

―バスケ部ならではのエピソードありますか。

バスケ部では、走りだけは負けなかったな。ずっとランメニューが多くて、ランメニューと筋トレ、ウエイトが多かったから。パワーと走り

だけは負けなかった。超走ってたし超筋トレしてた。

―今日もバスケ部が朝練やってるのを見ましたよ。

今みんな朝練してるんや。当時朝練紗彩しかおらんかった。

―ずっと一人でやってたんですか。

今も仲いいねんけど一個上の先輩とかな。二人でずっと毎日朝練してた。しかもうちの代がずっとコロナやって。家が厳しかったから、コロナが流行ってる時はちよっと部活もやめというはしいって感じ。半年間ぐらい朝練とずっと走ったりとか自主練してた。だからかも、走り負けへんの。ずっと走ったから。

―試合とか出たりしてましたか？

一番最初の公式戦に一年の時に出たんやけど、ルールも知らへんし、なんでボール回ってきてるのかもわからへんかったから、とりあえずラスト七秒か十秒ぐらいで出されて、よくわからずにボールだけ投げた記憶はある。

―高三まで部活をやって、忘れられない部活の出来事がありましたか。

忘れられへんのは、私初心者で、一個下の子がバスケ上手かって、同じポジションやって、私はコロナとかで体力あったけど休まなあかんかったから、部活の中であんまり存在がなかったかなとは思ってたんやけど。最後にある送別会の時に先輩と一対一で喋るみたいな場面があった。私の自慢はウエイトとランだけは手を抜いたことがなかったことやねん。自分が初心者なのもあって、絶対パワーと走るだけは負けへんみたいな強みが欲しかった。で、そのポジションの後輩が「ずっと見てて、一番尊敬してたのが私やった」って言われて、そんなこと言ってもええと思うてなかったからなんかもその時に初めて号泣した。そんな思ってたええと思うてなくて。しかも下の子やし。だからその時に

二人で号泣した記憶あって、それはハッキリ覚えてるな。嬉しかった。
―初心者で運動部に入るとかはメンタルしんどくなるって多いと思うんですけど、バスケットを始めてから挫折とかありますか。

めっちゃある。バスケットの挫折。コロナ禍でできひんかった時期、ずっと一人で練習して、性格的に体調崩すまでやるという、オーバーしちゃう癖があった。みんながオフの時期にやらないとっていうので、一ヶ月ぐらい、多分休みなしでやって、毎日六キロ走って朝練に行って。今思ったらバケモンすぎる。余裕できたら、階段ダッシュか、坂道ダッシュ、ずっとやってた。全然コロナが収まらなくて帰れなかった時に、マジでしんどかったかも、一番挫折したかな、もう無理かもと思って。だから、公式戦に実際ちゃんと出たことが最後しかなくて。最後の公式戦の時も、その三週間前に練習中に人の足を踏んで捻挫したんよ。それで松葉杖なっちゃって。その時は無理やり整体に入って直したけど、終わったと思った。とにかく泣いたかも。

―怪我したら、痛いしやりたくてもやれないですよ。

しかもみんなやってるの見たら、自分だけでできなかった。それがキツかった。

―部活したら忙しいと思うんですけどそれを支えてくれた親とか周りに感謝していることは？

感謝していることは、もちろん一年の時は普通にコロナもなかったから、遠征とかもあったし、すごいお金かかってるから、お金の面に関しては特に感謝やなっているものもある。お母さんがスポーツトレーナーで、自分もやっぱ膝を怪我しちゃって、そのリハビリとかかずとやってくれた。膝は一回もそういう意味では怪我をしたことがなくて、痛い痛いとかはあったけど、治してくれてたから、それはほんまに感謝

してるかな。あとは辻先生やね。普通、休んでたら、この子はやってないとか、参加してなかったし、試合でレギュラーから落とそうとか、（自分が）レギュラーとレギュラーじゃないをさまよってたし、三人同じポジションの子がおったから。そういう時って、部活に来てる子を使いたくなってしまうし、もちろんそのことは自分でも理解してたから。

でも辻先生は、私がやってることを全部理解して、練習をやってるのもわかってるし、部ノートあってんだけど、その部ノートに嘘を書いてないのも辻先生はわかってて、さあやのこと信じてくれてたから、試合にも出してくれた。ちゃんとそのノートにもすごい、これがこうで。みたいな、モチベーションになるような言葉をずっとかけてくれて、それはもう今でも感謝しかないなって思ってる。

―すごい、学校生活で辻先生と関わりあったんですか？

辻先生はね、学年が一個下やったから、学校でつてなると部活だけやったかも。部活とか、学校でたまにあつたらおはようございますって、それぐらいやったと思う。

*

先生との出会いから進路

―水野先生はどういう関わりがあったんですか。

水野先生は、私が三年の時に、コース担任制やけど、ほぼうちのクラスを持ってたみたいな先生やって。水野先生、関わったことある？

―あんまないかも。でもわかります。

そう、すごい関わりやすく、クラスのことも大好きみたいな、とにかく超いい先生みたいなを具現化したみたいな感じで、私がずっと代議員やった時に、水野先生と関わることも多かったし、私が物理苦手やったから、死ぬほど聞いてた。あと、学祭とか、体育祭とか、そういう時

に、一緒に残ってくれたりとか。学祭の時も、夜七時ぐらいに「もうそろそろはよ帰れー!」とか言われてたけど、みんなに残って次の日の作戦会議しようって。作戦会議したりとか、ほんまに友達みたいな最強の先生やった。尊敬できるし、だけどちゃんと一番身近におった人みたいな。だからすごい、一番お世話になったなって思う。そういう意味では、ずっと一緒に見てくれた。マジでいい先生やった。

―学校生活の話になるんですけど、高二からGLsに上がったって聞いたんですけど、文武両道するための工夫みたいな。

文武両道するための工夫か。テスト三週間前ぐらいから、勉強してて。多分一週間前で間に合わへんから。私理系なんやけど、理系教科が苦手やってん。

―なんで理系を選んだのですか。

理数探究が大きかったかな。その探究系の活動が好きで、理系に行ってたのがあって、あと、数Aが得意やった。だから、自分を過信していったら、理系教科合わなかったみたい。立守の中学生とかにも、GLs代表して話したりとかしてんけど、毎回友達に突っ込まれるのは絶対あなたじゃない気がするっていうぐらいテストが悪かった。でも、探究活動はほんまに学年で一番楽しんでた自信ある。

―高校のクラスの雰囲気はどうでしたか。

二年の時は仲良くて、三年も超仲良くて高校卒業して、二回集まった。全員で、三十人ぐらい。三十人のクラス、三十四人ぐらいやったんやけどさ、三人ぐらい来れへんとか、体調不良とかもあったんやけど、で、三十人で二回集まったから。それぐらい仲いい。

―二年と三年あんまクラス変わらなかったですか。

二、三年はあんま変わらんかった。理系だけと文理の半々のクラスみたいな形だったから、ちよっとシャッフルされたぐらい。

―GLならではの何かありますか。これよかったみたいな。

探究活動とAPはほんまにならではやし、湖上学習とか今あるか分からんけど、湖上学習まさかのクリスマスの当日二十四日とかにあったけど、意外とおもしろくて、みんなで船乗ることが何よりもワクワクして楽しかった。普通に楽しいって思っただけから学校帰って探究活動してまとめてプレゼンして発表してで、そこでの表彰が決まるのがあった。うちのグループが優勝したのが思い出。

―やってみたら意外と面白いとかつてありますよね。

APのやつでKKKっていう、大津にあるねんけど、KKKの人がその大学に来て、授業して、商品開発をしてほしいみたいな。で、商品紹介して、それをみんなの前で発表する。っていう授業があったんやけど。それで、色々いっぱいやって、そういう話をした時に、大学一回生の時に、その人ともう一回繋がって、インタビューしに行った。

その時の経験が今めっちゃ生きてるから、やっぱAPとかで自分が実験の楽しさ知って、そのAPの時に自分を持ってくれた大学の先生が今のゼミの先生やから。だからマジでAPがなかったら今の人生一個もないかもしれない。

―進路ってどうやって決めましたか。

進路は経営か心理で迷ってたかな、スポ健はその時は選択肢もなくって、六月ぐらいにそのAPの時に学部説明みたいなんで、たまたまその年にスポ健も理系で行けますみたいな感じのスポ健に行って、その時に発表が面白くて、スポ健行きたいって思い始めた。早めに何かアクションを起こしたらやりたいこと見つかるかなって思っただけで、高校の時に、先

生のついで、大学の先生の研究室まで、研究室訪問してた。そこでスポ健いきたいって強く思うようになって今に至るかな。

—スポ健の時に何やりたいとかあったんですか。

まあ、ざっくりやけど、健康に対する乳酸とかそういうパフォーマンス的なところの研究をちょっとしたいな—っていう興味で行ったかな。

＊

大学時代

—今は何をやってるんですか。

今主にやってるのは血管系の研究やねんけど、超音波当てて動脈を測んねんけど、血圧計みたいなんでぐーって五分くらいしめて、解放したら血流が一時的に増加するねん。その反応でどれくらい血管が拡張するかみたいな、血管の柔らかさ？動脈硬化の指標みたいなんを取りながら、企業とも共同研究を実際にやってる最中。

—すごすぎます。今は将来に向けてなんかしてるんですか。

来年は大学院に行くから。でも今年は、来月から来月の末(六月末)にテストがあつて。ECS Sっていうヨーロッパの学会があつて、その学会に自分の研究を発表しに行く。ていうのと、あと企業研究。アシックスとかミズノとかダイキン、村田製作所。多分アシックス。

ミズノの辺りは聞いたことあると思うねんけど、そこらへんは今一緒に企業研究してた。研究職に将来つきたくて、それこそアシックスをはじめとするスポーツメーカーとか、ヘルスケア用品、オムロンとか、やつぱそういうところに行きたくて。そのために学会に行つて実績を自分が持つっていうのもそうやし、発表するのとかも、やつぱ実践がある人の方がスライドとかも見やすい。やつぱり人に見せるために作るから、その経験を積んだりとか、人からの評価を得るっていうのと、あとは、自分

が例えば論文とかを書いたら名前が残るから、その名前で残つてたら、こういうことやつてましたつても名刺になるねん。今は自分の名刺作り中みたいな。

—自分は将来どうしよう。来年のAPの時に大学生になった時とやることが全然関係ないことなつても大丈夫なんですか。

いいと思う。研究やってるうちにあんま興味ないとかわかる。逆に言つたら今の時期やからなんか興味あるかも、ないかもよりは「いや、うちも興味なかった」みたいなぐらいの方が絶対いい。大学生活本当に楽しいよ。

—大学生活は高校生活と比べて楽しいですか。

大学生活はなんか自由なんが楽しいかも、一番は。バイトもできて、自分が好きつて、いい意味でも悪い意味でも自由なんが楽しい。自分がやれば超成果上がるし、やらなかったらやらんりになるけど。自分が多分やるタイプやったから、それが楽しかった。(聞き手も)多分やるタイプやと思う。

—今の自分からして、高校の時に絶対これはやつといた方がいいみたいなことは？

絶対やつといた方がいいことは、自分のやりたいつて思ったことは自分から積極的にやることかな。自分の習慣つて大学でそのまま生きるから、そこでやつぱやめとこつかなつてなる人は大学でもそれは出てきちゃう。やつぱりどんどんやつちやおうと思つたら、なんとかなるよ、みたいな感じでいけるタイプの方が絶対いいと思う。ポジティブに、失敗とかないから。

—なんかよく立守でも大事にしてるつて感じなことですね。自分のこだわりとかありますか。

これは良くも悪くもやけど、全部全力でやってたかも。やりすぎはよくないけど、手を抜かない。自分が納得するまでやるし、例えば、納得いかんかったら、ちよつと時間かけてみたりとか。自分の成長に妥協しないっていうのは、大きかったかな。なんか、だけど反対に言えばさ、悪い部分でもあって、手抜けへんから。キャパオーバーしやすいくから、自分としてはいいところもあるし、悪いところもあるから半々。やけど、良かったなと思う。高校の時は。

―一回決めたらそれずっとやりますよね。

そう、例えば何があるかな。難しいな。例えば、それこそ制作作品とか、ポスターとかの制作作品とかのこの配置が見やすいかなとか。あとは、この研究に対してもここまでやった方がわかりやすいかなとか。ほかにも動画作る時なんか例えはこの曲に合わせて、このタイミングでなんか出した方が綺麗やとか。それも時間なかった。その動画作るのって。だから手を抜かへん、ほんまによくも悪くも良かったかなと思う。今思ったら。

―でも、なんかちよつと抜いちゃうんですよ。うん、すぐに抜いちゃうから、

いいと思う。

―逆に、なんか必要なところで抜いちゃうから。なんかそう、抜いたらあかんところで抜いちゃうから。

例えば八割の成果出してたら成長はしてる。みんな半分以上出してたら大丈夫。紗彩はもうその出し方を自分も学べばよかったなって。あー、ちよつといいラインを探すのに難しい、百五十でやつちゃうからな。もうちょい下げてでもいいけどやれるうちは全力を貫き通したいな。―もうこんな時間なっちゃった。今日はありがとうございました。

こちらこそありがとうございました。

【感想】

インタビューを実際にしてみて、部活での努力や大学での研究とか相手の方のたくさん全力でやる部分などあって尊敬できる部分がたくさんあって、少しでもいいと思ったところは真似できるようにしてみたいと思います。聞き書きを通してやりたいことは失敗をしてもチャレンジすることをして高校生活から将来に向けて行動できるようになりたいです。聞き書きは自分にとって貴重で学びの多い体験ができて本当に良かったです。



右：聞き手 佐々木 菜那
左：語り手 谷口 紗彩さん